

住民総参加の福祉のまちづくりへ向けて
地域グループの役割

**町内会が
できること**

はじめに

町内会は、わが国の地域社会づくりの核として、極めて重要な役割を果たしています。ただ、期待されている分、いろいろな課題を抱えていることも事実です。

いま喫緊の課題とすれば、超高齢社会に踏み込んで、しかも地域は崩壊に瀕しているということでしょう。福祉が町内会の重要な活動テーマになっているのです。ところが町内会で福祉の何を担っていただくのかで、いろいろ異論も出ています。

超高齢社会になるほど、人々は小さな圏域で寄り添って生きています。それがご近所なのです。

そこでこれからは、できる限り福祉は各ご近所に委ねて、これをバックアップする役割を町内という圏域で担うことが期待されています。そのバックアップで重要な役割を果たし、ご近所福祉の後方資源となるのが町内の各グループですが、これらのグループとご近所を結びつける役割を担うことができるのが町内関係者なのです。

また、これまでのように町内圏域でサロンなどを開いても、要援護の高齢者は参加できません。そこで、これからの超高齢社会では、町内で事業をするよりも、できる限りそういう事業をすべてご近所ごとに開催できるようにしていくことが求められます。

つまりこれからの町内の役割は、住民が要援護になっても自分の足元で豊かに暮らしていかれるように、傘下のご近所を大事に育てていくということなのです。

といっても、そのご近所での福祉活動は、あくまでご近所さんたちの自発的な意思で行うものですから、町内会が指示、指導をするのではなく、各ご近所ができる限り自立して活動できるように支援していくことが重要です。

＜目次＞

1.なぜ町内会に入りたいがらない？／4

2.町内会は、助け合いをする所ではなかったのか？／5

3.町内会の人材の確保策／6

4.活動はまず足元から／7

(1)地域の活動テーマは町内会のここにやってくる／7

(2)通常の町内会活動に「福祉」のふりかけ／9

(3)「町内」としての活動から「ご近所」の支援まで／14

(4)町内の各組織の実践を後押し／16

5.ご近所活動の支援／23

1.なぜ町内会に入りたがらない？

町内会の加入率が年々下がっています。聞こえてくる「加入しない理由」はだいたい決まっています。あとはその対策をどう立てるかです。

＜町内会に加入しない理由、退会した理由＞

①入らなくても困ることはない

②役を持たされるだけ

③会費が高すぎる

④高齢なのに役が回ってくるので

⑤困った時に助けてもらえない

2.町内会は、助け合いをする所ではなかったのか？

生協やJAと同じように、町内会は本質的には助け合いのグループではなかったか。ところが、行われているのはいろいろな行事です。

<町内会で助け合い活動がすすまない理由>

①福祉以外の文化イベントが多すぎる

②福祉の人材が不足している

③福祉のための活動推進体制がない

④人材が育たない

⑤町内の困り事に対応していない

3.町内会の人材の確保策

町内会の組織と言えば、会長と副会長、会計。これでは何もできません。しかし町内会の会員はたくさんいる。彼らを生かせないのか。

①テーマ別の分担制に

町民はたくさんいるのだから、事業を細切れにし、夫々を町民に分担してもらおう

②町内のグループをすべて使おう

町内にはたくさんの活動グループがある。彼らを上手に生かそう。町内会に協力するのは町民の義務だ。

③男性を時間で縛らない。技術だけをいただこう

会社から帰った相手を家庭訪問して智慧だけをいただくのなら…

④本業の腕を活用

働いている人は各自「モチはもち屋」の腕を持っている。それをいただこう。

⑤男性の社会参加の後押しは妻が適役

地域デビューを指示しているのは大抵は妻。妻は社会への扉だ。

⑥町内会役員経験者の会をつくれ

定年退職した住民をまずも何らかの役員にする。翌年、彼らのすべてに「経験者の会」に入ってもらって、参加を継続してもらおう。

4.活動はまず足元から

(1)地域の活動テーマは町内会のここにやってくる

足元に活動対象は来ているはずですが、それが見えるには柔らかい頭が必要です。例えば会長には様々な悩みが来ています。あれは町内会の対象ではないのか？

①活動中の現場に



②リーダーのもとに個人的に



③活動の拠点に





④メンバーの話の中に



⑤会議の中でたまたま提
案される



⑥メンバーが足元の気にな
る人のことを報告



(2)通常の町内会活動に「福祉」のふりかけ

通常町内会活動をちょっと工夫すれば、そのまま福祉活動になります。例えば、イベントに障害者も参加できるようにすればいいのです。

①要援護者等「イベント」に参加できない人に便宜を図っているか？

例…障害児や要介護高齢者も参加できるように

②「事業」に近づいてきた「困り事」にも対応しているか？

例…イベントに悩みごとを持ち込む人

③その事業で「迷惑な人」「困った人」を特別に配慮が必要な人と見ているか？

④ふれあい（イベント）で「助け合い」を仕掛けているか？

例…ふれあいサロンを助け合いサロンに

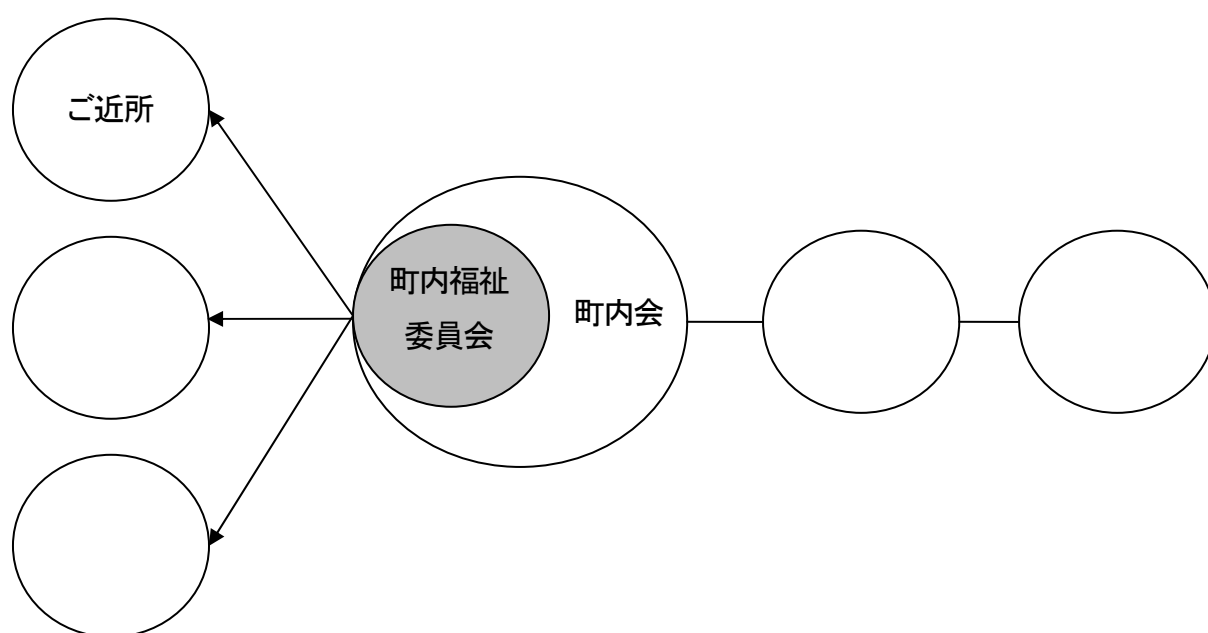
⑤町内清掃のときに、一人暮らし宅の庭の草刈り

	通常の町内会活動	ついでにできること
	町内一斉清掃の日	一人暮らし高齢者宅のゴミ出し（廃品処理）、茂りすぎた樹木の伐採。

(3)「町内」としての活動から「ご近所」の支援まで

今までは町内会としての活動を主に取り上げてきました。ところが、町内会というのは、複数のご近所の集合体でもあるのです。住民はそれぞれのご近所（およそ50世帯）でふれあい、助け合っています。

ただしこのご近所は住民が相性の合う者同士で助け合っており、また世話焼きさんと言う人がそれをバックアップしています。これを差し置いて、ご近所を支配・指導しようとしたら嫌われます。あくまで彼らの自主的な助け合いを後方から静かに応援することです。



と言っても、町内会活動自体が忙しいので、こちらの方は別の組織に委ねた方がいいようです。町内会によって、町内福祉委員会ができており、この委員会がご近所をバックアップすればいいのです。

ご近所で助け合い、そしてその支援は、住民の自発的な意思で行われており、それを町内会が支配・指導することはできません。知用内には多数のボランティアグループができていて、彼らを支配することができないのと同様です。

＜町内福祉委員会の編成の留意点＞

この町内福祉委員会は、文字通り福祉のことを実践する組織ですから、なるべく福祉に詳しい人たちで構成されるべきです。

また、ここはご近所の助け合いをバックアップする役割ですから、そういうことができる資質の人になってほしいのです。

この委員会は福祉事業をする組織というよりも、あくまで中心はご近所の助け合いの後方支援と考えたらどうか。

(4)町内の各組織の実践を後押し

■福祉委員会のもう一つの大きな役割は、町内にあるいろいろな組織・グループの助け合いを支援することです。そういう組織に、外部からと内部から、いろいろな悩み事が来ています。それを組織内でうまく処理できない場合は、町内として他の組織と結ぶなどして、支援するのです。

■また、ご近所での助け合い活動で、足りない資源があった場合に、町内の組織から超脱してくれるようにコーディネートするのも町内の役割です。

■その組織を町内会としてやるか、福祉委員会にやってもらうか、あるいは別の組織を作るか、検討する必要があります。

各組織のリーダーを集めて 活動連絡会の開催	
活動立ち上げの応援	
相談対応	
不足する資源を他の組織から調達	
人材育成	
各ご近所の活動支援	

①町内の企業の活動の後押し

やって来た悩める人の相談活動や、ご近所の活動支援のための資源提供など、いろいろな角度から活動を支援しましょう。

	企業名	○×	活動体制	支援課題

②地域グループの活動の後押し

	グループ名	○×	活動体制	支援課題
	J A			
	生協			
	婦人会			
	老人会			
	子ども会			

③公共機関の活動の後押し

	グループ名	○×	活動体制	支援課題
	消防署			
	役場			
	郵便局			
	公民館			
	図書館			
	福祉施設			

④学校の活動の後押し

		○×	活動体制	支援課題
	小学校			
	中学校			
	高校			

⑤趣味・生涯学習グループの活動の後押し

	グループ名	○×	活動体制	支援課題

⑥ 自助グループ・ボランティアの活動の後押し

	グループ名	○×	活動体制	支援課題

5.ご近所活動の支援

①組織(グループ)の町内版・ご近所版をつくる

これからは、超高齢社会になっていきます。そうすると住民の多くが高齢化し、彼らの行動半径は極端に小さくなります。町内で開かれるふれあいサロン等には彼らは参加できません。だからこれからは、町内でできているグループのかなりは各ご近所にも作られるべきなのです。

どのようにして地区単位でできている組織は、まず町内圏域にも作られるべきです。

	組織名	現状	町内版	ご近所版

②町内会をご近所ごとに区別

まず町内会を、各ご近所に分割していきます。と言っても、そういう制度を作るのではなく、何となくまとまっているご近所の範囲をあいまいなままでいいので特定するのです。住民ふれあいの状況を観察してから考えましょう。それは町内会がやるというよりは、各ご近所さんがやることになるでしょう。

	ご近所名	どこからどこまで	世帯数	人材
	第1ご近所			
	第2ご近所			

③ご近所ごとの支え合いマップづくり

マップづくりは、夫々のご近所に在住の世話焼きさんたちでやってもらいます。どこにどういう困った人がいるかと言ったことは、世話焼きさんが知っています。

③の<1>「第1ご近所」のマップづくり作成体制

世話焼きさんが見つかった所から順次、マップづくりをしてもらったらいいでしよう。これも周りから共生するものではなく、あくまで世話焼きさんたちの自由意思ですすめるべきです。

参加者	肩書き

③の<2>マップから見えた気になる人と解決策

ここからあとは、本研究所が作成している「支え合いマップづくり入門」を読んでからにしてください。やり方が書いてあります。

気になる人と状況	解決のヒント	解決策

③の<3>町内の気になることと解決策

解決策が出てきたら、その作業に参加した世話焼きさんたちで取り組んでもらいましょう。これをバックアップするのが誰かは、夫々の町内で協議してください。

気になること	解決のヒント	解決策

③の<4>マップづくりから出てきた町内会の役割

ご近所を特定し、世話焼きさんを掘り起し、マップづくりをしてもらい、課題が出てきたら、それを実践していただくという一連の作業をこなす過程で、これからはどういう仕組みで進めたらいいのかを考えてみてください。

その場合に、町内会、あるいは福祉委員会は何をすべきかを考えるのです。

課題	町内会の役割	具体策

③の<5>マップで見た、上層へつなげること

マップを作り、課題が出て来て、それを誰が担うかと言う段階で、関係機関に相談しなければならない場合も出てきます。その場合に、等言う仕組みを作るかを、検討したらいいかもしれません。

ただし、難しい問題が出てきたからと、即関係機関に持って行ってしまうのでは、ご近所の主体性が失われます。なるべくご近所で対応するのが筋です

課題	上層へ上げること	具体的なやり方

③の<6> 各ご近所の福祉推進体制

ここまで来てから、改めて各ご近所の福祉推進体制を考える必要があるかもしれません。

大事なことは、この体制の中にいろいろな関係者や肩書のある人を組み入れたら、身動きできなくなり、大事な世話焼きさんが引いてしまいます。あくまで世話焼きさんがやりやすい体制づくりを心掛けるべきです。

ご近所名	推進体制
第1ご近所	

住民流福祉総合研究所
木原孝久

〒350-0451
埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 1 4 7 6 - 1
TEL049-294-8284
kiharas@msh.biglobe.ne.jp
<http://juminryu.web.fc2.com/>
